

金沢美術工芸大学



外観

1946(昭和21)年に開学した「金沢美術工芸大学」は、金沢大学工学部跡地へ、キャンパスを移転。市民へ開かれた空間と学生が集中できる空間を両立。金沢の新たなシンボルとなる、美と知の創造拠点が完成した。



美術館・図書館
バリアフリートイレ

それぞれ機能を分散した4種類のトイレ。一番手前にあるバリアフリートイレには、パブリック用折りたたみシートを設置。さらに、車いす使用者が身繕いできる位置に、大きめの鏡を用意している。



3号館 女性トイレ

建物全体が白基調の中、トイレ空間は、壁やブースにグレーを採用し、間接照明を鏡上のみに設けた落ち着いた雰囲気とした。大便器は、連続洗浄可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用している。



美術館・図書館
トイレ入口



一般来校者が多く見込まれる美術館・図書館の入口付近に、機能分散したトイレを配置した。白を基調とした空間の中、スタイリッシュな黒の突き出しトイレサインが際立つ。



美術館・図書館
機能分散トイレ

バリアフリートイレの奥に、3ヶ所の機能を分散したトイレ(お子様連れ配慮・オストメイト配慮・着替え配慮)を配置している。



3号館 男性トイレ

洗面器コーナー、小便器コーナー、大便器ブースの各1ヶ所に手すりを設置し、さまざまな利用者に配慮。入口近くに姿見を設置し、全身の身繕いがしやすいようにしている。



美術館・図書館
洗面コーナー

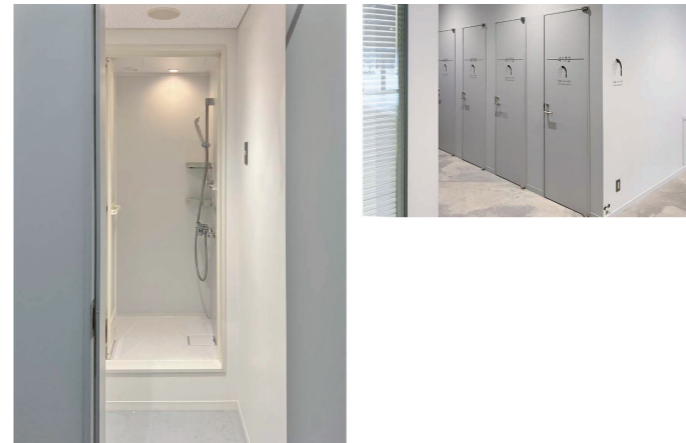


入口近くに配置された洗面コーナー。半個室になっており、視線を気にせず使用が可能。さらに、背面には荷物置き棚を設置している。



美術館・図書館
機能分散トイレ

お子様連れに配慮したトイレには、ベビーチェアを設置。さらに、制作などでほかの一般大学より着替えが多いこともありフッキングボードを設置している。



4号館 シャワールーム

工芸や彫刻を行う学生が、汚れをすぐ落とせるようシャワールームを完備している。

トイレ図面



水まわりの特長

建物の特徴

美術・工芸・デザインの分野における個性豊かな教育と研究に取り組む「金沢美術工芸大学」は、1946(昭和21)年に、金沢美術工芸専門学校として開学。このたび、旧キャンパスの老朽化や増改築による非効率化、作業や収納スペースの不足、近年の芸術活動の多様化といった課題を解消すべく移転を計画。建物は、専攻を問わずに利用できる「共通工房」を中心とした制作エリアを集約し、学生が集中して自由に創作できるコミュニティ空間を整備。また、学生の活動や制作作品を気軽に鑑賞できる展示スペース「アートcommons」をキャンパスの随所に配置することで、作品の展示や合評のスペースとして利用できる環境を実現。金沢の新たなシンボルとなる「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」が生まれた。

水まわりの特長

学生は、共通工房や専攻ごとの工房などキャンパス内を移動しながら活動しているため、学生の使用シーンとメンテナンスに配慮して、交通の要所となるような出入口近くや階段の近くにトイレをまとめて配置。またインクルーシブな存在となるべく、大学全体で使い勝手に配慮された水まわりを追求。トイレの在り方は、設計当初から大学と金沢市、設計との間で議論・検討を重ね、最も来校者の利用が多いと想定される美術館・図書館は積極的に機能分散を行った。さらに、学生はモノの持ち運びや着替えが多いため、多目的に使用できるトイレとして「広トイレ」を男女トイレとは別に1ヶ所設置。また、工芸や彫刻を行う学生が、汚れをすぐ落とせるようシャワールームを完備している。

建築概要

名称	金沢美術工芸大学
所在地	石川県金沢市小立野2-40-1
施主	金沢市
設計	SALHAUS・カワグチテイ建築計画・仲建築設計スタジオ
施工	真柄・トーケン・兼六・北川・鈴木特定建設工事共同企業体 城東・ウィルビー・本田特定建設工事共同企業体
竣工年月	2023年7月
敷地面積	47,275㎡
建築面積	18,621㎡
延床面積	37,357㎡
構造・階数	鉄骨コンクリート造、一部鉄骨造・地下1階、地上3階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS497BPC
ウォシュレット アプリコットP(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF583*AU系
ウォシュレットPS(温風乾燥付きエコリモコン): TCF5554AUPR
自動洗浄小便器:UFS900系/マーブライトカウンター(ポウル一体タイプ):MC50系
洗面器:LS716/壁掛洗面器:LS721AAPMWR系
コンパクトバリアフリートイレパック:UADAK01L1A1ANN2W
ベビーチェア:YKA15S/フッキングボード:YKA41R